

東北メディカル・メガバンク計画の具体的な実施内容と成果

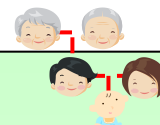
◎ 被災地を対象としたコホート調査の実施

◆地域住民コホート(8万人規模)



- ・被災地沿岸部(気仙沼市、石巻市等)の住民を対象に健康調査を実施し、生体試料、健康情報等を収集。
- ・対象地域に健康調査等を実施するための拠点を設置し、仮設住宅等を巡回して協力を呼びかけ。
- ・また、対象地域の保健所等と連携し、特定健診と連動して実施することも検討。

◆3世代コホート(7万人規模)



- ・宮城県全域を対象に、出生児、親、祖父母の3世代を対象に健康調査を実施し、生体試料、健康情報等を収集。
- ・対象地域の産科医療機関を受診した妊婦を対象にリクルートを実施し、妊婦健診等を活用して健康調査等を実施(現在、50機関程度と調整中)。
- ・また、対象地域に父親、祖父母の健康調査を実施するための拠点を設置。

◎ 達成すべき成果

◆震災の健康への影響の検証

- ・被災地で今後増加することが懸念される疾患(PTSD、うつ病等)への震災の影響を検証
- ・ここまで大規模な災害後の健康への影響の検証は、世界でも類をみない取組

◆次世代医療の実現に向けた研究の推進

- ・子どもへの健康影響が大きく発生頻度の高いアトピー性皮膚炎、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、喘息、自閉症等の関連遺伝子、環境要因等の同定
- ・関連遺伝子の割合が比較的大きく、15万人規模で十分に解析可能と思われる脳血管障害、虚血性心疾患等の循環器疾患、がん等の関連遺伝子、環境要因等の同定

◆研究基盤となるバイオバンクの構築

- ・生体試料や公表用の解析結果を幅広い研究機関へ提供し、創薬等を目指す研究を支える基盤を構築
- ・疾患コホート(バイオバンクジャパン等)と連携し、それらですでに同定された疾患関連遺伝子と環境要因との相互作用を解明することで、遺伝子情報と環境要因等を活用した東北発の次世代医療を実現